

ジャーナリズムはこれでいいのか？！

10年の原発報道を振り返り、これからに向けての課題を探ります

【メディア分科会の狙い】

福島第一原子力発電所の3基が爆発してから10年。『原発安全神話』が崩壊した今、『放射能安全神話』が懸念されています。原発爆発時、広島原爆の約168倍(Cs比)の放射能が関東圏まで拡散。直後、緊急避難者は、16万人。現在も、区域外避難者を含めると9～10万人が故郷に帰れていないと推定されています。

この間、メディアは様々な報道をしてきましたが、「3.11」が引き起こした社会の大きな変化や「核とのつきあいかた」はおろか、事故へのプロセス、原因などについて十分な報道ができたとは言えません。

日本社会に根強い「原発安全神話」から抜けだし、世論を変え、脱原発、脱炭素化、自然エネルギー導入へと進む国際社会に呼応していくために、ジャーナリズムは何を報じ、何を論ずべきか。

今回の『原発と人権』メディア分科会では、メディアが避けてきた問題を取り上げるとともに、原発爆発から10年、メディアは何を伝え、何を伝えてこなかったか？ 今後何を伝えるべきか？ ジャーナリズムの責任と課題の視点から考えたい。

【メディア分科会の狙い】

「ジャーナリズムは原発報道で責任を果たしてきたか？

～放射能惨事・これまで と これから」原発と人権・メディア分科会

とき：2021年10月9日(土)午後1時から5時

(会場参加とオンラインを併用)

ところ：早稲田大学小野講堂(東京都新宿区西早稲田1-6-1 27号館 地下2階)

会場参加は50人まで。他はZoomを使ってのオンライン視聴になります。

かいひ：800円

申し込み：

・インターネットで、次のアドレスを入れ、クリックしていただく。

<https://mediabunkakai.peatix.com/>

・ネットで「ピーティックス メディア分科会」と入れていただくと、このサイトが出ます。そこから、手続きしてください。

【プログラム】

- オープニング 映画上映(林勝彦監督作品「いのち」の一部上映)
- 開会挨拶 コーディネーター・司会 林勝彦(科学ジャーナリスト、元NHK)
- 第1部 基調報告「ジャーナリズムは原発報道で責任を果たして来たか？」
瀬川至郎さん(早稲田大学政治経済学術院教授、元毎日新聞科学環境部長)
コメント 桶田敦さん(大妻女子大学教授、元TBS解説委員)
- 第2部 5人のジャーナリスらによる各論＝現場と専門的な分野からの報告
★『見捨てられた被ばく者～どこへ行ったか被ばく報道』

